

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-4 ワイヤーマッシュ

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-4 ワイヤーマッシュ

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-4 ワイヤーマッシュ

4-4 ワイヤーマッシュ (溶接金網)

(※ 設置方法や、基本的な構造は、ワイヤーマッシュ設置マニュアルを参照)

◆**基本的な構造**

●**イノシシ対策**

資材：φ5mm 以上、#100mm 以下

(φ3.2mm を使用する場合は、支柱とアンカーを増やす)

設置方法：横置き (高さ約 1m×幅 2m)、

●**ニホンジカ対策**

資材：φ5mm 以上、#100mm 以下

(2 段重ねる場合は、上部のパネルはφ3.2mm、#150mm でも良い)

設置方法：縦置き (高さ 2m×幅 1m)、または、上下に重ねる (高さ 1.8m 以上×幅 2m)

(ワイヤーマッシュ、樹脂ネット、電気柵とで複合柵にする)

(※) イノシシ、ニホンジカともに、上部 30cm を 15° ~20° 獣側に折り返す (忍び返し) と、跳び越えによる侵入の頻度が減少する。

対象鳥獣	イノシシ ニホンジカ	機能・種類	柵の種類：侵入防止柵 (個別の圃場に設置) すみわけ柵 (農地・集落周囲に設置) 柵の機能：強度と高さにより侵入を防ぐ物理柵
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・メッキ無しの資材は、物理柵の中では安価で入手しやすい ・メッキされた資材は、耐用年数が長い ・パネル状であるため、破損箇所の修理取り替えが容易 ・耐用年数が樹脂性の防除柵に比べて長い ・樹脂ネットに比べ、雑草、ササ、ツル植物 (草・ツル類) の管理が容易 ・電気柵に比べて草の管理が容易 		
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・資材が重くかさばるため、設置・補修時の運搬に労力を要する ・林内に設置する場合、木の枝に引っかかり、運搬に労力を要する ・物理柵で強度が強いという安心感から、点検・管理が疎かになり、破損や侵入に対する対策が遅れる事がある ・メッキ無しの資材は錆びるため、物理柵の中では比較的耐用年数が短い 		

◆**導入時の注意点**

- ・すみわけ柵として使用する場合は、農地や山際に設置する場合と、森林内に設置する場合が考えられるが、利点と欠点が存在するため、設置前に、設置ルートを整理しておく。(詳しくは、第3章 P11-P17を参照)
- ・柵を設置すると、獣も通りにくい、人も通りにくくなるため、定期管理を前提に扉の設置場所を考えておく。

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-4 ワイヤーマッシュ

- ・点検・維持管理作業をスムーズに行うため、柵の両側（内側と外側）に管理道を設置する。
- ・草・ツル類の管理は、柵の延長の2倍（柵の内側と外側）になる。
- ・破損や侵入を早期に発見するため、定期点検を計画しておく。
- ・支柱、アンカー、補助支柱の必要数は、立地条件や使用資材によって異なるため、条件に応じて使用本数を設定する（目安は、手で揺すってもグラグラしない程度）

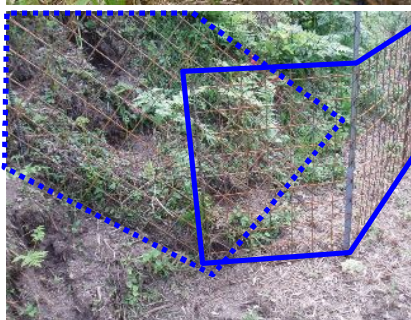
- ・潜り込み、持ち上げが発生しそうな場所は、廃パイプや竹を下部に固定すると強度が増す。
（竹は秋から冬に切り出した物が長持ちする）
（丸太を使用する場合は、腐ったり虫が発生する前に交換する）



- ・縦線は、外側（獣側）に設置
（イノシシは、縦線と横線の交点を押したり、横線を噛んで引っ張る傾向がある）



- ・地形の変化点では、ワイヤーマッシュを多めに使用して、隙間ができないように重ねて設置
（簡単に切断できるので、切れ端をスキ間にはり合わせて固定しても良い）



- ・溝や凹地にもワイヤーマッシュを設置する
（クリッパーで切断できるので、必要な形に加工する）



4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点
4-4 ワイヤーマッシュ

◆導入時の注意点

●接合部からの侵入防止



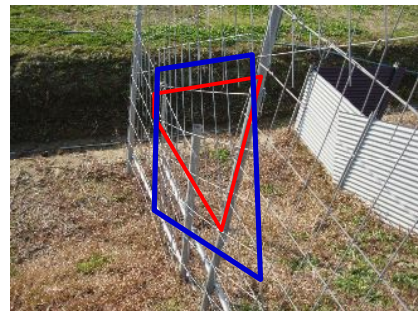
・接合が弱くて、抜けられて侵入



・支柱と縦線を重ねて、たすき掛けに針金で固定
・1マス重ねるとグラつきにくく強度が増す



・隙間があると、侵入されることがある



・適当な大きさにワイヤーマッシュを切断し、重ね合わせて固定

●跳び越えの防止



・1m の場合、イノシシにも飛び込まれる事がある
・2m でもシカに飛び込まれる事もある



・柵の上部を外側に折り返し、忍び返し柵にする
・上部に針金やマイカ線を追加
・ワイヤーマッシュを適当な大きさに切断し、上部に追加

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点
4-4 ワイヤメッシュ

●もぐり込みの防止



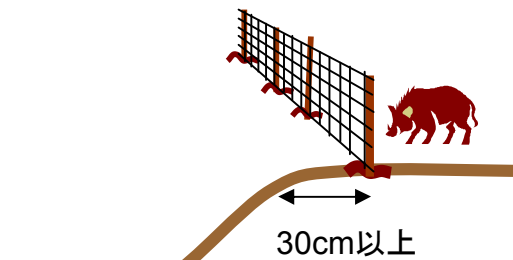
- 下部の固定が弱いと侵入されることがある



- 竹、間伐材を外側（獣側）に敷いて固定すると、もぐり込まれにくくなる
- 単管パイプを下部に設置すると、強度が増す



- 法面の肩部分ギリギリに設置すると、潜り込みによる侵入が発生しやすい



- 法肩からは、30cm 以上離して設置
- 法肩から離して設置すると、管理・補修作業も容易になる
- 止む無く法肩に設置する場合は、竹や間伐材を獣側に敷いて固定